

情報・システム研究機構長の業務執行状況の確認結果

情報・システム研究機構長の業務執行状況の確認規則第3条に基づき、平成30年度の機構長の業績について、業務執行状況の確認を実施しましたので、その結果を報告いたします。

1. 実施方法

「平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書」及び国立大学法人評価委員会による評価結果並びに機構長との意見交換及び監事からの意見等をもとに、業務執行状況の確認を行った。

2. 対象期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日

3. 確認結果

- 特筆すべき状況を生み出している
- 順調に進めている
- おおむね順調に進めている
- やや遅れている
- 重大な改善事項がある

4. 理由

戦略企画本部が有効に機能し、新分野の創出に寄与していると考えられるほか、人間文化研究機構との連携による古典籍の解析等の異分野融合に関する取組に成果が出ていることは評価できる。

また、データサイエンス共同利用基盤施設の運営においては、当初計画を上回る体制を構築できており、これらの活動や、国の命題ともなっているデータサイエンティストの育成等において、具体的な成果として実を結ぶことになれば、特筆すべき状況となることが期待できる。

他方、様々な活動の推進に伴う事務業務の増大及び多様化によって、職員が疲弊しているとの指摘が監事からされており、これについては解決策を講じることが望まれる。

これらを総合的に勘案し、平成30年度の機構長の業務執行状況は、「順調に進めている」と判断した。